



大塚 健太 さん (37)

まくひとしごと 枕崎 × 人 × 仕事 No.28

枕崎市青果地方卸売市場 / 松之尾町

「枕崎×人×仕事」では、枕崎にあるさまざまな仕事と、その仕事に携わる人を紹介します。



昭和32年に折口町で産声を上げ、枕崎の青果・花き等の卸売の中心を担ってきた枕崎市青果協同組合。昭和45年に現在の松之尾町に新築・移転し、地域に貢献してきました。今回は、枕崎市青果地方卸売市場(以下、青果市場という)で勤務する大塚健太さん取材しました。

枕崎出身の大塚さんは、立神小・中学校、枕崎高校を卒業後、鹿児島ハイテク専門学校現鹿児島キャリアデザイン専門学校(工業系の知識や技術を学ぶ、鹿屋市で金型設計や製造販売をする企業に就職しました。その後、地元で働くことに魅力を感じ、菊農家をしている実家とつながりがあった青果市場で働き始めました。

青果市場の主な仕事は、農家

等生産者からの仕入れ、セリや直接取引による小売業者や飲食店等への販売、配送などです。なかでも大塚さんの担当する業務の朝は早く、鹿児島市の中央卸売市場での仕入れに向かうため、午前3時30分には枕崎を発ちます。仕入れから戻ると、枕崎の青果市場で仕分けや荷受け、セリの後、販売者への配達や事務処理を終え、正午には終業を迎えます。忙しく動き回っているため、1日はあつという間に感じるそうです。



燃ゆる感動かごしま国体 ~枕崎市ポスターコンクール展

今年10月に開催される国体なぎなた競技をテーマに、本市の児童、生徒を対象としたポスターコンクールを実施し、その入賞入選作品を展示します。

- 期間 3月7日(火)~3月12日(日)
- 会場 南浜館(市民ギャラリー)
- 観覧料 無料



【小学生の部最優秀賞】 桜山小学校6年塚田珠哩さん「薙刀」

【中学生の部最優秀賞】 別府中学校1年栗野健さん「面!!」

スポーツ・文化 イベント情報

- 南浜館
- 開 9:00 ~ 17:00 ※入館は16:30まで
- 休 毎週月曜日 ※月曜日が祝祭日の場合は翌日
- 問 スポーツ・文化振興課 TEL72-9998

「歓迎!!」ようこそ枕崎へ! 仙台育英学園高校野球部が冬季合宿



2月13日から21日にかけて、昨年夏の甲子園大会優勝校である仙台育英学園高等学校野球部が市営野球場で合宿を行いました。

2月15日、歓迎セレモニーを開催し、市長から激励のこたばを贈りました。キャプテンの山田脩也さんは「枕崎の暖かく、整った環境で一人一人のレベルアップを図り、甲子園大会の春夏連覇に向けて頑張りたいです」と話しました。



▲地域おこし協力隊文化祭に協力してくれた仲間たち

今月の担当は りんね隊員です!

暖かい日が増えてきました。サン・フレッシュ枕崎前に咲いている菜の花には、蜜の香りに誘われたミツバチが多く訪れていました。春の訪れを感じ、もうすぐ枕崎に来てから1年になるのだなと気づき、来年度もきつとあつという間なのだろうなと思います。

地域おこし協力隊 活動レポート

協力隊が行く!

協力隊イベントを終えて

2月4日(土)、古民家ゲストハウス・カフエKOTOKOTO(住吉町57-1)で地域おこし協力隊1年の集大成となる文化祭イベントを他の地域おこし協力隊と一緒に開催しました。自家栽培の農作物・お出汁・枕崎紅茶の販売・ストラックアウト・似顔絵などさまざまな催し物を展開し、150名を超える方が訪れてくださいました。私は1年間撮影してきた枕崎の風景を写真展として展示し、そこで初めて実際に写真を市民の皆さんに見ていただき、とても良い経験になりました。13時から市長の始球式もあり、さらに盛り上がりしました。今回のイベントは、県内の地域おこし協力隊の方をはじめ市民の皆さんのご協力をいただき開催することができました。今回のイベントを生かし、今後市民の皆さんと交流できるイベントを企画していきますので、今後も地域おこし協力隊の活動を応援してください!



▲立神岩

写真展示作品

これからの活動について 地域おこし協力隊になってからは、枕崎をバイクで巡りながら商品撮影・イベント撮影・取材など幅広く撮影し、SNS等で情報発信をしてきました。また最近茶節の魅力に惹かれ、さまざまなイベントで茶節の振舞いをしながら、軽節生産量日本一の魅力発信にも努めています。イベントや取材を通じ、市内の農業・いごやの従業者、県内の地域おこし協力隊の方々との交流があり、人との繋がりが増え、今までで最も多くの人と出会った年でした。

これからも人との出会いや繋がりをさらに増やし活動を広げることで、新たな枕崎の魅力を発見し発信していきますので、応援よろしくお願いします!



▲鬼火焚き



▲開聞岳

市長

コラム

vol.47



卒業

3月は別れの季節、それぞれの学校で卒業式が行われます。そこで今月は、卒業について書きたいと思います。

私も数十年前に、大学も含めると4度の卒業を経験しています。小学校の卒業は本市の場合、ほぼ同じメンバーで中学に進学しますので、「別れ」というより「節目」という印象が強いですし、実際、私もそのような思いだった気がします。

それが中学校の卒業となると、進路によって学校が別々になる友達もいて「別れ」の印象が強くなります。私自身も中学の卒業には「別れ」というイメージを持った記憶があります。そして中学を卒業する時には、(なぜか高校ではなく中学校時代の)その年々で流行る「卒業ソング」というのがセッティングになっていくことがよくあります。ちょうど私が中学校を卒業した年は、学園ドラマ「3年B組金八先生」のシリーズ1回目の全国的な大ヒットがあり、そのドラマの主題歌贈る言葉がその年の卒業ソングの代表でした。ところが、鹿児島県ではまだテレビの民放局が2局しかなく、そのドラマが県内で放映されておらず、そのヒット曲は知っていてもドラマを観た同級生は皆無で、なんだか全国と同じ15歳たちに取られ残された印象があったのも、今では懐かしい思い出です。

このように「15の春、中学の卒業」には何年経っても思い出されることがあるものです。

今年の中学校、高校の卒業式、卒業生はコロナ禍の中で入学して3年間を過ごし、コロナ禍の中で卒業していくことになりました。コロナの影響で、楽しいはずの学校行事が中止になったり、さまざまな制約の中で学校生活だったり、我々の時代からは想像もできない経験を強いられる学校生活だったろうと思います。それだけに、今年卒業を迎えるすべての人にとって、この3年間が未来への宝物になり、これから先の時代を生き抜く糧にならんことを祈るばかりです。今年学校を卒業して新しい一歩をスタートする皆さん、卒業おめでとうございます。